

「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第7回

1. 実施日

令和4年7月9日（土）1、2限

2. 場所

多目的教室（9チーム）

311教室（9チーム）

3. 対象

グローバル科2年生（6・7組）

4. 講師

大阪大学 全学教育推進機構 教授 堀一成先生

大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 准教授 柿澤寿信先生

5. 内容

講義及びワークショップ 「よい研究発表とはどのようなものか？」

- (1) 本日の目的と進め方
- (2) よく見かける研究発表のパターン
- (3) よい研究発表の条件
 - ①研究目的が明確であること
 - ②思考に分析（分けること）と論理（つなげること）が含まれていること
 - ③的をしぼった調査ができていること
- (4) 明確な研究目的とは
 - ①「主題」・「トピック」・「仮説」
 - 「主題」…漠然とした大きな関心領域
 - 「トピック」…具体的に特定された研究対象
 - 「仮説」…トピックに関する「因果」あるいは「比較」を含む予想
 - ②トピックの5要件（研究する意義があるか 研究する本人が興味を持てるか 本人の力量で扱いきれるか 必要な情報が集められそうか 内容に新しさがあるか）
 - ③「主題」・「トピック」・「仮説」を考える
- (5) 分析的思考／論理的思考とは
 - ①定義 分析とは「分ける」こと 論理とは「つなげる」こと
 - ②「分ける」考え方 仮説設定に関して
 - ③「つなげる」考え方 議論の筋道 根拠づけ 論点抽出 ピラミッド構造
- (6) 的をしぼった調査とは
 - ①何をすべきか ②論点の明確化 ③情報の取捨選択

6. 学び

①研究目的が明確であること ②思考に分析と論理が含まれていること ③的をしぼった調査ができていること 以上3点がよい研究発表の条件であることを理解し、自分たちの課題研究を進める。

7. 次回への課題

今回学んだよい研究発表の条件を整理し、夏季休業を利用して調査計画を立案する。

8. 本時の振り返り

学習者は1年次に「イノベーション探究Ⅰ」で探究の枠組みを学習し、京の智の再発見をテーマに探究活動を行った。そのときの発表の成果や、今年度の探究計画を振り返って、これからの探究テーマに関するチームの議論が促進されることを期待している。

また、本時で学習した分析的・論理的思考のプロセスは探究の文脈に依存することなく、これからの変化の大きい社会で生き抜くために必要なスキルだと考える。各チームの計画を確認し、適切な助言・指導を行い、学習者の思考プロセスの精度を向上させるようにする。

